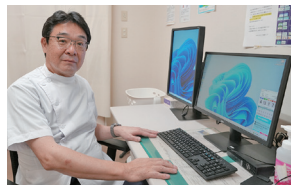


総胆管結石性胆管炎について

今回は内科部長 村上貴俊先生に「総胆管結石性胆管炎」について伺いました。



▲村上 貴俊 医師

総胆管結石性胆管炎という病気についてご存じでしょうか？

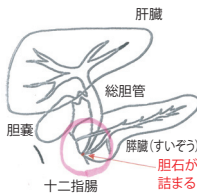
今治地区に多く見られる病気ですが、なぜ多いのか理由は不明です。肝臓は非常に多くの役割がある重要な内臓ですが、その一つに胆汁を分泌するという働きがあります。

胆汁は食べたものと十二指腸で混ざって、主として油分の消化を助ける消化液です。胆嚢に小さな胆石ができ、それが総胆管に落下し十二指腸への出口（主乳頭）に詰まると、上腹部痛、嘔気・嘔吐、尿の色が濃くなるなどの症状が出て、血液検査をすると肝機能値が異常値になっていきます。

総胆管結石の治療は、内科で特殊な胃カメラ（側視鏡といえます）で行います。胆管炎を起こしている緊急時には、側視鏡で総胆管にプラスチック製のチューブを入

れる処置（内視鏡的胆道ドレナージ術）を行います。絶食、補液、抗生剤点滴などで治療し、肝機能、炎症が落ち着いたら、再度側視鏡を入れて胆汁の出口である主乳頭を切り、石を砕いて取り出します。胆嚢の中の胆石の治療は、外科で胆嚢ごと取り出す胆嚢摘出術を行うこととなります。

総胆管結石性胆管炎以



外でも、膵臓の十二指腸寄りの部位や胆管に腫瘍ができ胆汁の流れが悪くなった時にも同様に内視鏡的胆道ドレナージ術を行います。もし腹痛、嘔気・嘔吐、尿の色が濃くなったなどの症状が出た場合は早めに病院を受診してください。

社会福祉法人
済生会 恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

☎0898-47-2500

